

# 貫山・千仏鍾乳洞ケービング

【報告者】加藤 明子

【日時】平成19年9月2日 【天候】曇り 時々 小雨

【参加者】田中 Dr 稲田 福田 三好 樋口 泉(富) 泉(麗) 能勢  
岩谷 芳野 加藤 藤末(見学) 河野(見学)

## コースタイム

10:00 ~ 10:45 読図事前演習

10:45 吹上登山口出発 11:45 三叉路 13:00 吹上登山口

14:00 千仏鍾乳洞入洞 16:30 出洞

## 報 告

当日の平尾台は曇り。田中.Drの「等高線が500mを超える地点を探しなさい」という課題にチャレンジすべく、まずは吹上登山口の駐車場で地図とコンパスの勉強。登山中も周囲の地形を見ながら自分の現在位置を確認しつつ、歩き、止まり、話し合い、悩みつつ前進。先輩方にいろいろと教えていただいたおかげで、楽しみながら課題をクリアすることができた。その後も、地図と地形を見比べながらゆったりと歩いてきたため、結局、頂上へ行かずに途中で下山。ノヒメユリや桔梗の咲く平尾台をハイジのように歩きながら、「羊群原の石は実は羊の化石(嘘)」とか「あちこちの窪み(ドリーネ)は実は空襲の爆撃の跡(嘘)」などという謎の話題にも花が咲く、楽しいハイキングだった。

地図読み実習後は、千仏鍾乳洞ケービング。入洞前に、まず着替え。各々、「丈夫な服を着てくるように」とのアドバイスを聞いていたため、そのファッションは、フリース、ジャージ、つなぎ、作業着、カップなど、さまざま。ヘルメットとヘッドランプも装着。洞窟の途中までは一般の観光洞でもある千仏鍾乳洞において、その異様な風体の一群は衆目的的となり、カップルに指をさされたり、はたまた、「業者の人ですか」と言われたり。意気揚々、入洞してみると、夢に見た宝石好きのドワーフたちが住む地底の王国は・・・狭っ。日ごろは狭くて暗くてジメジメしたところに喜んで生息する私だが、真っ暗な洞窟を匍匐前進するにいたっては、「出られなくなったら・・・」という恐怖に肝が冷えた。しかし、皆さん(主に女性)は狭くなるにつれてテンションが上がっていくし、Drと稲田さんは洞内で無線の実験をする余裕っぷり。

やっとの思いで行き止まりに到着し、ようやく最深部かとホッとしたら、足元に犬小屋の出入り口のような横穴が。何人が進入を試みるものの、難しい様子。これを突破したのは、助っ人として参加していたケービング経験者の三好さん(睡眠不足)。へ

ルメットを脱げば何とか進めるとのことで、チャレンジ精神旺盛な方々（やはり主に女性）が三好さんの後に続く（ちなみに私は断念・・・）。結局、数人は最深部に到達したようだ。楽しそうにガンガン進む泉麗子さんと対照的に、「まだ行くの？」と困ったような泉富弘さんの姿が印象的でおもしろかった。出洞後も興奮冷めやらず、すでに次回の企画が持ち上がっていた。洞窟内は温度が一定のため、冬は案外暖かいらしく、この冬、さらなるケーピング企画が開催されるかも！？

余談。帰ってみたら、どこで引っ掛けたのか、長袖シャツに穴が。やっぱりケーピングには厚手のものが向くのかも・・・と思いつつ、近所の作業着屋さんを物色する今日この頃。

